

もくぞうやくしによらいざぞう
木造薬師如来座像

県指定有形文化財（彫刻）

二色根薬師寺のご本尊は青と赤二色の石の薬師如来像です。このご本尊は、薬師寺の和尚さんがこの寺の住職になったとき、一度だけ見るができるそうです。他の人は誰も見るができない「秘仏」とされています。そのため、その代わりに拝まれてきたのがこの「木造薬師如来座像」です。

この如来像はヒノキの寄木造、金色の輪を背負い、右手は施無畏（右手の5本指をそろえて伸ばし、手のひらを前に向けて、肩の辺に上げる）の印、左手の薬壺を載せて結跏趺坐（両足を組み合わせ、両腿の上に乗せる）の姿をしています。温和・端麗・豊満な面立ちで、いかにも衆生の病苦を救うといわれる薬師如来にふさわしいものです。肉髻（頭の盛り上がったところ）は大きく、螺髪（丸まった髪の毛）は小さく、水平な髪際、衣文の美しさなどから平安末期頃の造りと考えられています。

仏教において薬師如来を守っているのが「十二神将」です。この像にも平安後期頃の作とみられる十二神将が付属しています。

この二色根薬師寺には次のような伝承があります。むかし、慈覚大師というお坊さんがこの辺に訪れたとき、近くの山中を歩いていると、とてもきれいな鈴の音が聞こえてきました。不思議に思って近づいてみると、大きな杉の木の根元に何か光るものがあります。よく見ると、それは青と赤二色に輝く石の薬師如来像でした。仏縁を感じた慈覚大師は、そこにお堂を建ててその仏像をまつ

りました。これが二色根薬師寺の始まりということです。

「二色根」という地名もこの伝説から生まれたとも言います。

仏教において薬師如来は、諸病苦を治すと言われていいます。また、一般的に諸病に効くと言われているものに温泉があげられます。そのため、温泉の守り神に薬師如来をまつている所がとても多く、市内の赤湯温泉の守り神も薬師如来です。温泉場に旅したときは、守り神を探すのも楽しみ方のひとつですね。

南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二

平成 27 年 5 月 1 日号 市報なんよう掲載

